
(自称)勇者の僕が後援支援!?

星屑 歯車

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

(自称)勇者の僕が後援支援!?

【Nコード】

N6745X

【作者名】

星屑 齒車

【あらすじ】

しょーもない理由で

死んでしまった

主人公「アキ」が

神様によって

異世界に転成する物語り

ぶろろーぐ(前書き)

初とーこーなので

死体を見るような

生暖かい目で

みてください．．．

ぶるるーぐ

(僕は死んでしまった・・・)

(理由は簡単でとても
名誉ある死に方だった・・・)

『綺麗でロリ・・・いや小さくか弱い少女に囲まれて安楽死』

(と言うなんとも名誉な・・・)

?????：「おいコラ、何勝手に死に方を改変にしてやがる・・・」

(・・・いやいや、

声が聞こえたけど

僕は死んだんだ。

今頃死んで神様とお話と言つ実にふざけてることなんかないは・・・
)

神様：「神様の言葉無視んじゃないよ、ロリコン!」

振り向くとローブに

包まれた神様と

名乗る人物がいた...

(.....前言撤回、

そんなことあったよ.....)

僕：「ロリコン？嘗めないですよ...僕は変態と言つなの紳さげふつ!？」

なんで殴るの!？」

痛いし最後まで言わしめ」

(なんで殴られるの!？」

てかローブの隙間から

何かがみえ.....)

神様：「ウザいから殴つたんだがなにか?」

僕：「!!!!!!????!??」

僕は驚いた.....

いや、普通なら美女な

神様が殴つたと思われるが違つた.....

ボディービルダーも

脱兎の如く逃げそうな
ガチムチな神様がそこにいた・・・

僕：「ヨウケンハナンデスカ？シテクテンゴクニ
イカセテダサイ・・・」

僕は早くこの神様ガチムチから離れたかった・・・
が神様ガチムチは、近づいて急に
肩を叩いてきた・・・

（逃げたい逃げたい逃げたい逃げたい逃げたい逃げたい逃げたい逃
げたい・・・）

神様：「ガタガタ抜かすな
早く転成させねえと
いけなねえんだから
ちよつと・・・待ってる」

そう言うといつのまにか
持っていたぶ厚い本の
ページをめくり、
僕のどうでもいい
過去を次々言っていく

（僕の過去を掘り返すなああああ！・・・ああほとんどが黒歴史・・・
・・・orz）

神様：「．．．そして死因

『船の甲板でパソコンのゲームをしてると船が大きく揺れてパソコンが

落ちかけて、手伸ばしたら一緒に落ちて溺死

．．．．．か」

そういうと、本を閉じ

神様の手の上で本が

メラメラ燃えていった．．

僕：「．．．．．え!？」

いやいや、僕は

『綺麗で口r．．．いや小さくか弱い美少女に囲まれて安楽死』で
しよっ!？」

神様：「事実を受け止める

．．．．．こんなことで死んだ奴初めてだ．．．」

呆れながらむさ苦しい
ポーズを見せつけながら
言うガチムチ神様は
とてもイラッ ときた…

僕：「う、うとうるさいな！、あれは高いパソコンだったし、ゲームも途中だったんだ！！
てか五月蠅いんだよ
このハg…」

神様：「まあ…死に方があまりにも可哀想
なんで異世界に転成
さしてやってもいい…」
僕：「ならパソコンのゲームの世界を模した異世界見たいな場所
求めます神様」

神様：「反応早いな！！おい
…なら能力はなにがいい」

僕：「要らないので早く
転成してください」

神様：「随分態度変わったな！？・・・まあいいその
素直さに免じて俺の力
をちょっとやるよ」

（んなことはいいが
前よりかはエンジヨイ
できるだろう・・・）

神様：「まあ頑張れや・・・」

ダルそうに呟くと
急に僕の目の前
がだんだん暗くなって
く、その後から
徐々に意識も遠退いて…

「まあお前ウザいから
可笑しなようn・・・」

なにか変なことが
聞こえた様な気が
したけど・・・
気にしないでおこつ
…

ぶろろーぐ(後書き)

ダメだしまってます

(; . . .)

（自称）勇者の僕が後援支援！？（前書き）

またまた書きました

ぐだぐだですが

料理人を見てるような

魚の目で見てください…

(自称) 勇者の僕が後援支援!?

母:「アキー、早く起きて」
「飯食べちゃいなさい?」

アキ(僕):「はい、今行くよー」

(アキ、それが僕の名前...まあ名前は特にきにしてはいない、まあ厨二とかの名前よりかはましなほうだろう...)
僕はパジャマ姿のままベットから起き上がり立ち上がると、いつも通り部屋を見渡した。

転生してから早くも16年が過ぎ去った...あのガチムチ神様のお掛けで異世界の平和な村のごくごく普通な家庭に生まれた...

そんなことを思っていると、下の階から母が呼ぶ声が聞こえてくる...
...

母:「今日は記念日だから、早く可愛い顔をみしてねー...」

「……………アキちゃん」

そう、母が呼ぶように僕は、男ではなく女の子として生まれきた。流石に生まれた時は『(はあ!?なにしてんの!あの筋肉八ゲ神!)』と思っっていたがむしろ感謝している……………理由は簡単、気楽に女性に気軽に触れれるから。

そんなくだらない回想をしても余り意味がないと思っ僕は簡単に着替え下の階に降りた。

母：「おはようアキちゃん 今日もやっぱり可愛いわね」

下の階には僕の年を3年引いたような少女がいた……………明らかに周りの人々から見たら僕の妹に見えるが実の母である……………見た目は12才だが立派な大人である、もちろんロリコ……………もとい、小さい子が好きな僕は興奮……………よろこんだ。僕：「カーさん……………可愛いのはわかったから……………用件をいつてくれるかな?」

ミルクをコップに注ぎ、母の正面の椅子に座ると母はおもむろに真剣な表情になると僕を見つめていた……………(あれ?カーさんてこんな真剣な人だっけ?) いつも天然ボケをかます幼い姿の母を見、ミルクを飲み始めているとおもむろに母が話しかけてきた。

母：「……………実はね、今からアキちゃんにはギルドに行つて旅立に出してほしいの」

(. えええ!?)

真面目に話しかけてきた母が言った言葉に驚き僕は飲んでいたミルクを嘔き出しむせてしまい。

僕：「げほっげほっ . . . 急になんで!?!しかも今!?!急すぎない!」

母：「実は私達の家系は16才になったらギルドに登録して旅立つのよ?」

僕：「嘘でしょ!?!なら何で今になって . . .」

母：「実は教えるのを忘れてたの ごめんね?」

明らかに僕より年下に見える少女のような大人にそんな天然ボケをかまされたら仕方ないとかいえな . . .

僕：「で、でも僕 . . .魔法使えないし . . .」

これはまだ僕が小さい頃に母から教えられたのだが、さすが異世界と言えるほどこの世界では魔法が存在したいの人は使用出来るが僕は . . .いや、僕だけ魔法が使用不可なのだ . . .が、その代わり賢者以上の魔力と無駄に多いスキルが備わっている

：ちなみにスキルは僕にしか分からないようになってる。

僕：「ま、まあギルドに登録したと言うことはもちろんジョブは．．．」

母：「大丈夫、ギルドには職業『シーフ』として、登録しておいたからね」

僕：「ってそれ別名盗賊だから！！名前で差別されちゃうよ！」

母：「だって．．．魔法が使えない、非力なアキちゃんにそれ以外のジョブがあるのですか？」

そうなのだ、僕は魔法も使えなければ力も無いに等しい．．．しかも体が他の人より少し弱く体力なんか某最弱冒険家並みに力も体力も無い．．．実に嘆かわしいことだ．．．これじゃあスライムにも負けちゃうよ．．．

母：「家計もギリギリだし．．．お願いアキちゃん^^」

僕は「わかったよ．．．かーさん」とだけ言うと二階に駆け上がり旅の支度をした。旅の支度ついでに僕の姿を鏡で確認してみた、髪は漆黒のように黒く肩まで伸びたちよつとボサボサの髪で、頭の上のアホ毛ぴよこんと出ている。顔は中性的で体は少しほっそりしてぺちやぱ．．．もといスレンダー体型でカジュアルな服を着ていてまさにボーイッシュ．．．こんなことを思いながら荷物を持って扉を勢いよく開け母に一言

僕：「じゃあ．．行つてきます！」

こうしてやっと僕の旅が始まった．．

母：「あ、お土産よろしくね」

観光旅行じゃないからね!?

迷いの森

さて、ギルドに行くためには森を抜けなければならない．．少女一人で森の中って色々危ないような感じなんだけど気にしない！森の中は薄暗く周りからは何やら動物の鳴き声が聞こえるが．．．怖くないですよ？たかが森ごとき．．って!？虫がいた！怖い!!

まあこんなバカみたいに騒ぎもしたが無事に草原に出てこれた．．

あと数キロでギルドがある城下町につく……

僕：「まあ……あとの少しの距離だから魔物が出てきて戦闘なんてならないよね」

ドラゴンが現れた！！

（……………え？）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6745x/>

(自称)勇者の僕が後援支援!?

2011年10月19日08時14分発行